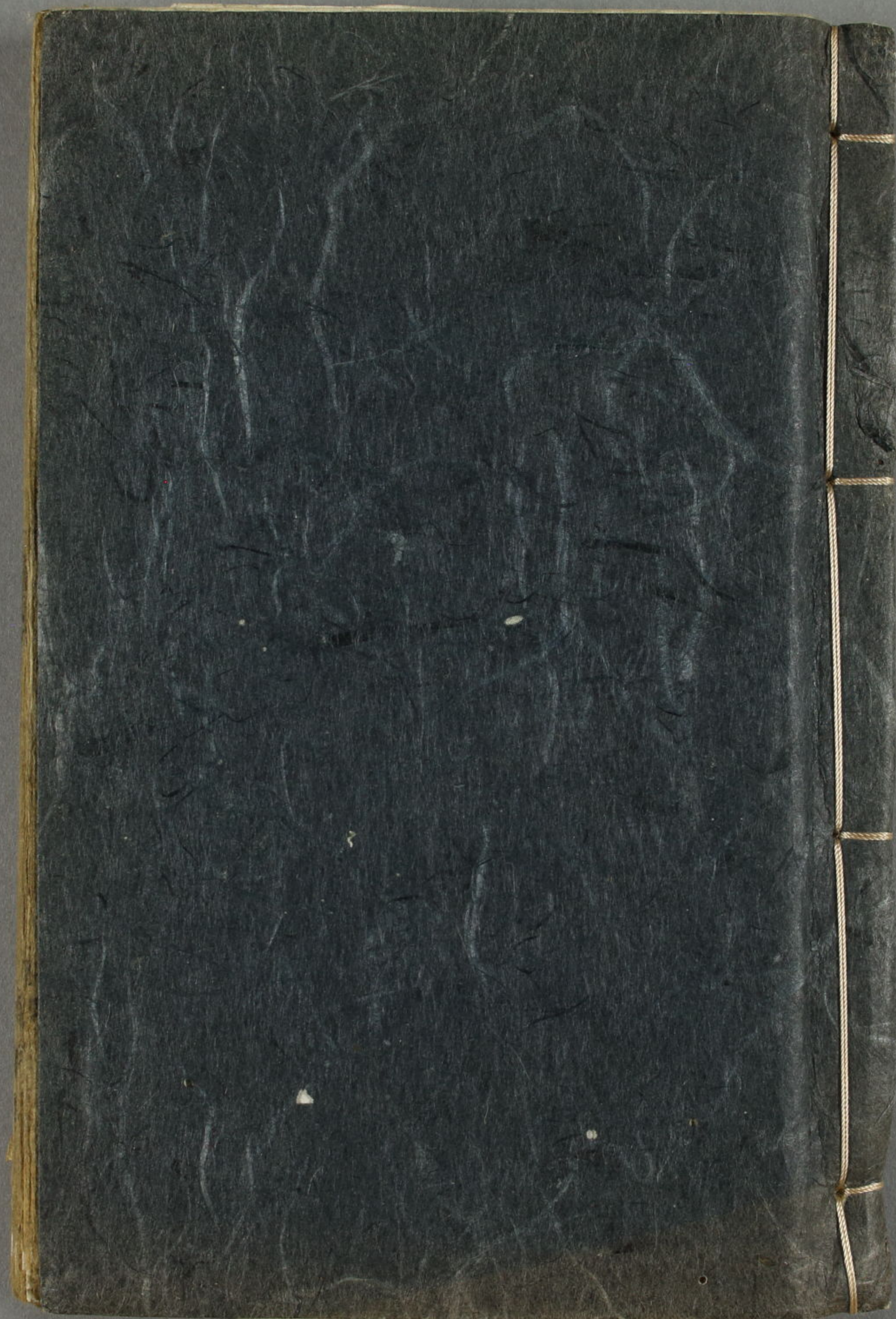




木曾路之記









東山道西帰之記序

東山道西帰之記序

貞享し丑乃歳に武城より西
み帰らんをせしむの身いふ東よ
遊りんも定めあけし廿三日に
おしといふ越えゆく者の轅と北
とふくく申の目えしとふうの
あそねれとあそねれと神威
伏せりしに神威のちと

と此津ありはる津宮作のるるづ
よふみづきとちきいたされ
ふいさゆいさやうれれと筆よ
其さうとも志はさん事
もかこけいりりめ室乃八喜
に立より是利の学校はゆくて佐
野天明とすれ妙哉ふものなり
日い炭をこえろりの内は浅間が

嶽をらるはる路はるいよ波路
とこえ嶽機とゆるく鷹斜と出
ふ地して是路より越路をえ
ゆくゆき海にる波の園より右
みづかふ北よゆき伊吹山のぬれ
湖の海まづけ柳の瀬刀禰と
て越前乃敷かえより金ヶ崎め
ゆき守はる海をわらふ守はるの宮

を伏せし本乃目と云はたる見あり
らと云ふえ近江の貝津れ浦も出
湖の水も云と云はたわど川ゆきた乃
森比良れ渡野田の浦も野田の入江
坂も大はをくく系も入ぬと云えぬ
同く人けと云ふと云ふなりけり
うと云ふなりけり名物の地と云ふ
この地も云ふなりけりけりけり

ふいふと云ふなりけりけりけり
と云ふなりけりけりけりけり
いり遠くありけりけりけり
浪の立ありけりけりけりけり
みんしと云ふなりけりけりけり
をいふなりけりけりけりけり
乃末片と云ふなりけりけりけり
かきと云ふなりけりけりけり

白のむさうにうらぐんあま
 いあふ人一日の猪イナあそむ一日乃
 神仙イナあふといふはうまうれ
 あふのけりも浮世れりも目け
 て佳境イナとさひちいふすれぬ生
 らそと竟イナ寐の仁あひく山イナの遊
 をあそむといふと東坡がうま
 了く大君の清めくといふりて平

乃せよけ終はるをゆる事なりと先
てこゝめを遊ばし其一時乃ちあつたの
うは男とわらふはくおにをふたれ
わりとふをさしやまといふまのわら
んふを地へてちりたすい物とらふ
まる終とてかゝ終く終ゆへさるよ
しあゝ終は目へいさある村里のあり
さはとのきくすすい川乃流連國を

所^カの佳^カ系^カた^カく^カん^カは^カよ^カき^カら^カい
ま^カに^カ陸^カし^カく^カ道^カの^カづ^カに^カあ^カり^カ
書^カし^カて^カ後^カ乃^カと^カい^カふ^カよ^カき^カん^カあ^カつ^カけ^カ後^カ
の^カと^カい^カふ^カの^カ乃^カき^カる^カよ^カき^カあ^カり^カれ^カん^カ
と^カて^カ長^カき^カ道^カと^カ短^カき^カ筆^カに^カし^カう^カせ^カ安^カ
み^カ純^カく^カら^カぬ^カを^カ以^カて^カ平^カ安^カ城^カの^カ書^カ林^カ
柳^カ枝^カ新^カ世^カ記^カ行^カを^カ梓^カと^カり^カの^カり^カん^カ
と^カい^カふ^カと^カい^カふ^カし^カ記^カは^カ昔^カ彼^カ道^カと^カい^カふ^カ

一^カは^カ時^カを^カ村^カ童^カの^カめ^カと^カい^カふ^カは^カ北^カ東^カと^カい^カふ^カ
と^カい^カふ^カあ^カれ^カい^カき^カう^カふ^カ事^カ有^カる^カん^カも^カじ^カ
ろ^カあ^カと^カい^カふ^カ位^カた^カく^カや^カん^カと^カい^カふ^カ君^カ
乃^カん^カ信^カん^カも^カあ^カと^カい^カふ^カけ^カな^カと^カい^カふ^カ世^カの^カ人^カ
あ^カも^カう^カみ^カも^カん^カも^カあ^カけ^カあ^カれ^カい^カふ^カあ^カ
あ^カと^カい^カふ^カと^カい^カふ^カあ^カれ^カい^カふ^カあ^カも^カあ^カ
と^カい^カふ^カと^カい^カふ^カあ^カれ^カい^カふ^カあ^カも^カあ^カ
と^カい^カふ^カと^カい^カふ^カあ^カれ^カい^カふ^カあ^カも^カあ^カ
と^カい^カふ^カと^カい^カふ^カあ^カれ^カい^カふ^カあ^カも^カあ^カ

わやよりを河へあふし流りて
ききしめん

寶永六年孟春の日

益軒貝原篤信記

本曾路之記上

貝原篤信記

江戸

是より常陸

より板橋へ二里十町

板橋

より藤二里

此

おきと

戸田

の

流あり

比

川

水

六

板

より

出る

川

上

紙

入

名

川

を

い

下

流

草

へ

流

る

角

田

川

是

都

名

所

伊

勢

勢

所

所

と

と

見

る

川

を

い

て

い

て

い

て

蕨より浦和へ一里半

浦和より大宮へ一里十町

大宮より上尾へ二里

上尾より桶川へ一里近し

桶川より蕨へ一里半

桶川の町家敷百軒許あり

蕨より惣谷へ三里半

蕨の巢氏家百三十軒許町のおに

大地方より日暮へり。比色。阿波

寺。後守殿。内。箕田村。中。八幡

あり。是。液。色。一。総。が。社。也。総。ハ。根。又。よ

り。箕田。其。田。よ。ち。成。箕田。乃。源。次。と

号。じ。ま。い。所。か。村。入。口。大。方。寺。後。守。殿。城

を。く。り。乃。ち。あり

惣谷より源谷へ二里半町

惣谷。此。町。家。百。軒。許。あり。惣。谷。次。名。寺。実

何ぞと云ふ。然るに本傳あり。元分
秩父へ三里半あり。秩父の武蔵郡に云
ふ也。江戸の板橋よりあり。江戸
戸が坤の方より。秩父の下留の
と云ふ。留の重忠宅の傍あり。城
の北。江戸より留の十里あり。然
るに江戸より三里半あり。永井
へ三里半あり。是れ其の傍あり。西

也。玉井村茶屋を

源谷より中庭へ三里あり

源谷家敷三百あり。江戸の墨田村
あり。墨田の原谷あり。江戸の墨田
源谷の茶屋あり。江戸の墨田
より六里あり。江戸の墨田
より六里あり。江戸の墨田

中庭より新町へ三里

中庄町家百むろ酒井宗女殿外

新町より倉加野へ一里半

新町乃氏家二百坪町の出口は橋を

是か酒井雅系以後分ち岩鼻村へ

か川氏家と中庄城へ天正年中

川氏家と監と小糸氏政と合戦し

へんか川乃渡とより同新越前も殿

多也

倉加野より高砂へ一里半 上所也

倉加野町屋二百口又十軒町中より

向は浅沼みゆり高砂分所町より

依井の道より高砂北あり道より

日西は依井村あり依井舟橋を渡せ

し川より名所之古寺多し舟橋をつか

ぶし本なりとて今こはまで

云今いへ依井源家恒世の意宅と

安中北郡教区白河。内前山崎の坂を度々
なり二万石村。碓日川は傍ありたふ
妙義の山あり。妙義の山ありたふなり
性来一里のあり。おは琵琶乃前と
云ふは坂を江戸へ毛まで平坂の坂なり

松井田より坂中二里

松井田家教区白河より。比地を教区
云ひるは横川と云ふは雲雨あり。教

根の雲のく。性来のおやーと人さむ
妙義の松井田の南なり。たふといふは
松井田より坂中乃西まで凡五里なり
つとる山あり。おは山とよハ弟木は
地よりながれ川の坂なり。さへ藤乃さ
取は堂よりまお坂なり。とよ二町なり。町を
民がこれの也。妙義の山あり。たふ休
息なり。たふとあり。町は北にあり。北

〇本所より

此方とらふは上列武列山下に見えて
好ましく町より石の階を降りゆき堂
を。妙義法師とあるを。市あり。又渡り
てとて雲集れ人民の志を致し湯治を
す。加ふ人の集居を多し。て懸橋を
造り。堂の側より山の上を。堂にあり。新
安夜に。さう女巫を。に千餘人を。此より。
集居の人数を。御託を。と

又。此をのべて。各主人あり。その香を
を告ぐ。妙義法師へ。此處に。の法性
を。多し。と。延。帝。此。の。人。なり。い。こ
代。白。と。号。に。奥。院。へ。禁。より。一。里。有。
中。の。嶽。と。云。ふ。と。と。り。む。其。地。あり
と。云。い。こ。世。の。形。を。奇。異。に。形。成。され。ハ
神。灵。あり。事。は。なり。か。は。名。に。ハ。必。其
わ。り。所。あり。と。い。ふ。と。あ。つ。の。松。井。田。と

碓日岩へうつ。石へ入食れ。海を名ふ。
おとけうすいたけい坂をとり坂東よ
へう境よあう。之東海乃る是極の繁
山のじいれど是極の根のかく険難
よあう。す坂中れと碓日岩下よ。虫
くけあう。このま坂をまうては。極
石坂と云ふ坂中よりて年あう。あひ
又碓日岩よ上は。是へさじう。碓日坂

か東よりうりし。或は下総者。津上
かとの山。東に流る。筑波のえよ
みゆ。昔日本武尊の東征。あひ。碓日岩
か底に乃方河をて。筑波をまひ。三
夜歌く。吾嬬者耶との。まひ。けり
あべ。もか。東に流る。吾嬬玉と云。日
中紀の系。乃紀よる。碓日岩よ。葉
全。町。冬。ま。雪。ふ。た。は。然。る。

現を。い。而。上。壯。修。法。此。塔。之。音。唯。目。見。
 之。新。田。義。貞。其。三。男。其。弟。也。義。家。と。
 足。利。將。軍。子。氏。と。合。我。わ。り。し。事。を。年。紀。よ
 る。こ。り

将井沢 佐助佐久 分。寄。掛。へ。二。里。六。町

将井沢 佐助佐久 分。寄。掛。へ。二。里。六。町。
 之。い。而。上。壯。修。法。此。塔。之。音。唯。目。見。
 之。新。田。義。貞。其。三。男。其。弟。也。義。家。と。
 足。利。將。軍。子。氏。と。合。我。わ。り。し。事。を。年。紀。よ
 る。こ。り



ふじ極木あり。石の北といつべし。昔、
憲政が。苑師の命を將として二万余人、
刈白井の地へ爰向と。武田信玄より
板垣信成、形所、とて。将井沢よ出て戦
ふ。けし板垣、勝利とありとあり

當掛より遊分へ一里三町

當掛家較六十町、新井町、おにり、浅
弓へ、乃、あり。藤、一里半。藤より、

へ一里半ありと云。おにりより、い、二里地
ありと云。藤、園、小、一里半あり、い、
を、く、も。將井沢より當掛へ、平、あり。當
掛分、遊分の、乃、あり。か、さ、下、あり。右、あり。び
乃、民、家、二、さ、あり。右、家、より、や、の
宿、あり

遊分より小田井へ一里半

遊分の町家八十許。是、本、為、強、と、小、あり

と云。是より上北の沼田ともうけお世
と云。沼田の上列麻栲のおく。是より上を
し。上田分松城若光寺などあり。新治へ
ゆくと云。川中嶋と道なり。姨捨の上田
分み里先よりと云。又科新之。男の所
の上田よりと云。小縣新之。伏屋の所。此の
中なり。松城の上田分。是の所。此の
は丹波橋と云。宿あり。筑摩川と云。是

と云。川中嶋なり。筑摩川と云。此の川と
中よりと云。川中嶋と云。是より上は横河
あり。昔は常義仲と。平家此方へ越
後河を易と合戦よりとあり。永禄の
中。中田信玄の甲列より。長尾謙信の越
後へ合戦。川中嶋より合戦。若光寺
の先より。沼田あり。此の所。軍帷。新治
と云。此の所。是より上は沼田新治

と大社之庭をみ川中流を十六里許をよ
み。皆先きの町必ふ筋に。皆先きの筋に
のち田十三里許をよ。○浅君北嶽に
あてまゝとふ。禁地北にたぬ。あま
いふふ。山よふ。おに網を中う。さ
このよる。うぐ。又。おと。ごと。げ。中
より。よ。葉。本。生。せ。び。一。日。の。肉。を。網
な。た。た。た。大。屋。け。と。り。付。い。ふ。里。と。里。れ。る

穀く。呼吸。あて。血。菜。碗。の。お。と。ひ。と
て。破。る。事。を。焼。る。と。死。と。云。や。け。る。れ。ご
と。く。あ。る。る。な。の。う。う。に。ま。い。常。に。あ。る。り
う。う。大。蛇。い。ま。れ。い。山。繞。い。時。を。わ。り。江。戸。の
あ。う。う。と。い。山。大。蛇。の。お。き。い。時。に。灰。に。死
あ。う。事。わ。り。と。い。い。い。江。戸。の。方。へ。近。く。是
流。尾。張。の。方。へ。ま。う。い。伊。勢。島。繞。上。葉。平。の
な。り。の。次。子。伊。勢。島。流。の。あ。う。り。より。流。る

が嶽と見えて。奇がよきところやうな所だ。峰
勢尾端の方より山をくぐり降りて
見ると。約がたけの結ぶ所。業平の武蔵
と此の色あて。浅方が嶽をよめる奇だ。
仔細物語をあらう人あつたへあや。
近からり小昇へり。ふたふたなり。さう
取より。元持井沢分和田。武蔵の
るの水たがれ。詰りくま川へ。落合で越

後よなぐる。松城よ青武田信玄の家。松
高坂源の昌信を傳す。ま内へ貝津の城と
号す。〇桐原と云名所と川中。橋よある云
小田井より名村田。一里八町

小田井の家。二十里あり。許る。家ありして
是のうき。宿と小田井。おまよき。おまの
堀と飯よりたる。おまの飯。飯。飯。飯。
といふ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。さきよ。

ゆかり。又八岐と云。凡けきき方れの上
二日月を宿多

名村田より塩名田へ二里八町

名村田の町家八十軒。町の入口より小張
へ移りあり。二里を。名村田と。塩名田
より。平塚村。移り。塚村。下塚系村あり
塩名田より八幡二十七町

塩名田の町家七十軒。町の出口に川と

鏡摩川と云。名所。大河なり。小橋と云。せ
り。げ川と云。れと南河あり。川中橋と云。ぐ
て。昔より。つと。里と云。れと。流れ。越後
田より。出て。海へ。入。り。云

八幡より。里。月。三十二町

八幡の町家百軒。八幡の交。り。げ。る。令。の。坂。
凡。生。坂。と。云。坂。あり

里。月。より。名。田。へ。二。里。八。町

野平ふく合戦あり。後又修玄と徳源
と。比取ふと初夜^{しよど}の軍あり。又取ふと根
津村と移る。根津^{ねづ}基平が居る所也。又
根津村の下にも。又と移る。又夜沢村と。
本多小原^{ごんざ}くし。夜沢と云士と比取人
りや。比取より方より田とあり。あふれ
小を。らと移る。又田とあり。石原坂と云坂あり。
又とりとる。と云

葛田より長久保へ一里は八町

芦田^{あしだ}此町家石坪。比多より芦田^{あしだ}此町家石坪
城^{わき}の松あり

長窪^{ながくぼ} 小縣郡 一里和田へ二里

長久保の家石坪。下和田村。長窪の南
大門村あり。とある。大門^{かど}岩あり。たより
あふ小。比と武田修玄と修玄の領地
並原との合戦あり。大門^{かど}岩合戦と云

和田より下の旗務へ六里十六町

和田の所部百餘あり。はるる小和田^{たけり}。坂^{さか}長^{なが}。上下あり。二里半餘あり。東坂^{あづまざか}のやとらふまで。西坂^{にしざか}のけし。さきさきと^{くろ}。み^みあらず。三月末^{しま}まで。名の^なみ雷^{かみなり}あり。路^{みち}もなだのそなり。麓^{ふもと}より東^{あづま}へ八町^{はちまち}より。りるや村^{むら}あり。麓^{ふもと}より西^{にし}へ六町^{むさむさ}より。やむわ^{やむわ}。と^とびわ^{びわ}より。さき雷^{かみなり}あり。

下の旗務より塩尻へ三里

下の旗務へ和田^{わだ}麓^{ふもと}の坂^{さか}あり。家^{いえ}七^{しち}百^{ひゃく}あり。むらあり。人^{ひと}おおくあり。坂^{さか}なり。はよ。下の旗務大^{おほ}の井^いあり。さきと^といふ。是^{こゝ}所^{こゝ}の^の方^{かた}なり。さき^{さき}町^{まち}なり。むらあり。と大^{おほ}の井^いの社^{やしろ}あり。是^{こゝ}秋^{あき}と^といふ。東^{あづま}の方^{かた}なり。大^{おほ}の井^いは正月^{しんげつ}朔^{しつ}日^{にち}より。春^{はる}の^の方^{かた}なり。つ。七月^{しちがつ}朔^{しつ}日^{にち}より。秋^{あき}の^の方^{かた}なり。はる^{はる}の^の方^{かた}なり。毎^{まい}。



度秋興よの世あり。元日みいお礼に。
 七月朔日みお礼あり。去るよすすす。
 秋まいお社あり。秋まみすすうたひま
 まいお社あり。上乃秋傍よ。下乃秋傍より
 三里あり。上の秋傍のま三月圓の目ろ
 ？。圓れ目三あまは仲と月二あまを油と
 用。窓の頭と七十又。組よのせ。秋あま傍
 又別よ麻肉と料理一壺とてそか。社

人^カと^カ麻の肉を食と。他人^カ社^カ今^カり^カゆ
ろ^カと^カお^カ麻^カの肉^カを^カら^カふ^カ。麻^カひ^カう^カの
獵^カ師^カ又^カ之^カ輕^カ介^カと^カる^カ。お^カ来^カり^カて^カ柳^カ
ぐ^カ。下^カ此^カ獵^カ師^カの^カま^カつ^カり^カに^カ麻^カ皮^カを^カま^カと^カ下^カ
此^カ獵^カ師^カ此^カ社^カ人^カも^カ麻^カ食^カの^カゆ^カと^カい^カお^カと^カ
上^カの^カ獵^カ師^カよ^カい^カと^カ仲^カ七^カ十^カを^カな^カれ^カ祭^カあり^カ
と^カ此^カ獵^カ師^カを^カ及^カ負^カ麻^カ之^カ。社^カ人^カい^カと^カ下^カ此^カ社^カ
と^カ名^カ人^カは^カ。獵^カ師^カと^カい^カと^カ一^カ人^カなり^カ。よ^カ此^カ

社^カも^カ此^カ獵^カ師^カ名^カ一^カ人^カあり^カ。又^カ社^カ獵^カと^カい^カと^カ下^カの^カ
社^カも^カ名^カ人^カあり^カ。社^カ獵^カ上^カよ^カふ^カ。下^カよ^カふ^カ
右^カ附^カり^カ。上^カ下^カを^カに^カ七^カ十^カに^カ一^カ度^カ。^{毎^カ寅^カ申^カ年^カ御^カ柱^カ}
と^カて^カ大^カ祭^カあり^カ。を^カを^カ里^カ方^カより^カ人^カ多^カく^カ集^カ
る^カ。其^カ儀^カ式^カお^カび^カに^カ。四^カ月^カ申^カ寅^カ日^カを^カか^カて^カ
ろ^カく^カ用^カゆ^カ。下^カ此^カ獵^カ師^カより^カ高^カ橋^カ此^カ地^カへ^カ一^カ
里^カあり^カ。獵^カ師^カ安^カ藤^カと^カい^カふ^カ。吾^カ地^カなり^カ。三^カ方^カ二^カ
ふ^カ石^カは^カり^カ。地^カの^カ湖^カ中^カよ^カあり^カ。三^カ方^カの^カ湖^カ也^カ。

陸の方一方向へはわり。ま前よかして
入町并わり。尤右の派なり泳し。まへに橋
を。橋乃下へ河なり。船の出入自由之橋
あり。あまふくし紙。衣が橋と云右所へ。びあ
富士の親うつろと云。右海乃奇に。信
なる衣が橋よ。まてこれだ。富士の上へ
わすれ舟。ま本集れ奇に。まは海衣
かみふれがめは。ま同くじまなり。ま

海より上の飯傍れ。一里す餘あり。湖
のりりて。海に田中と云。上の飯傍れ
甲州なり。江戸か甲州と云れを。ま
ま。ま。ま。ま。甲州と云る。ま。ま。ま。飯
傍れ。ま。ま。飯傍の海。飯傍名。ま。ま。
右奇と云。飯傍の湖。ま。飯傍の町。
ま。ま。ま。ま。一里すあり。ま。ま。ま。
二里程。ま。ま。湖。ま。ま。ま。ま。

目どひあさし海に舟七尋むりてあり
又浦くありて民家多し。雪方に多し
あり好氣の漢人多し。て魚をさる。漢
舟をり。漢舟の外船は多し。人々多し
は湖をまわる。氷をりてす地を遠る
なく。湖一面はふさがる。年々を温ま
す。霜月の初仲秋或師をり初より
氷をりて後人まよふ。春をりては

よりて正月の末。二月の末を氷れと云
る。二月の末までと云ふ。氷は二月末まで
上。雪をれば氷をく消る。氷のわのさ年
より八分。一又二三すあり。そよ何れ
大木大を並てとる。事あり。氷を人
よりてとわやうかど。氷のよるゆは
んをさる。てあり。まよ雪つめは雪の
たのしく。んをさる。す。らんが

て。わきとひろくとりて魚沢と爲。首を
くしぬくところ。とべなをさげて冬を去る
漢人^{ぎやうじん}とあざり残せむとつり。〇下れとけ
より富士にふり二十ふ里むりある。むよ
ふりふりこころの駿河^{とうか}よりてむよりふりか
じしむりこころに。但信濃の地なるか
富士にふりこころに。は湖に水にふり
方よかづれ。あふりふりか。とて。を列へ

いぞ天竺川とある。もと天竺川の源之をよ
りて天竺のよりてきて日本にあり。との
源流のじふれに。鳳凰がだけと云。もと
れにちをがづけと云。湖の長はあり。か
はがづけと云。もと小田井より八岐乃
にあり。ゆもこときく。湖のまゐり小川
よりぐいと云。魚多し。てよ。式はあよ
あ。ぐひてのが。ゆと漢人。る。ひる。は。ひ。

どれより北の山とてこののがうづつて
くさる。麓をたてゝわきへくさる。比治のふ
もと赤魚しよ。候索部うさろめまで
下の飯沼ふ四里。候索部うさろめから候索
部うさろめ二あり。まを飯田なり。まを
飯今ハ内飯沼河も飯沼三万ふさ飯
田飯沼大和寺殿飯沼二万ふさく。まを
と飯田のうさろめ下は飯沼より飯

へ十八里。このまへ八里あり。○川中橋へ下の
飯橋より十四里とぐり。越後のこの田へ三
十里。○飯橋のありき長敷のありきと
と人どろとど。冬と此の雷はりき中二
尺五寸とぐり。○田より雷はりきとぐり。
○下のまへは枝倉
橋系橋多し。○冬と此の雷はりき中二
尺五寸とぐり。○田より雷はりきとぐり。
○下のまへは枝倉

塩尻^{しほり}殿^{との}を坂^{さか}と坂^{さか}所^{ところ}とよ社^{やしろ}と。なほ塩^{しほ}尻^{しほ}に
 わり。びるあも系^{けい}橋^{はし}所^{ところ}とみあり。首^{くび}民^{たみ}田^で
 信^{のぶ}玄^{げん}下^{した}の御^ご所^{ところ}の方^{かた}より也。松^{まつ}中^{なか}の城^{しろ}と小^こ
 笠^{がさ}原^{はら}氏^しと。本^{もと}富^{とみ}所^{ところ}集^{あつ}ち。松^{まつ}橋^{はし}原^{はら}より出^でて。
 塩^{しほ}尻^{しほ}殿^{との}より。甲^{こう}洲^{しゅう}坊^{ぼう}と信^{のぶ}濃^{のう}所^{ところ}と合^あ戦^{せん}と
 一^{いっ}かり。塩^{しほ}尻^{しほ}殿^{との}より西^{せい}院^{いん}磨^まの所^{ところ}なり。び
 坂^{さか}より富^{とみ}士^し山^{さん}とゆふ。又^{また}とつ御^ご所^{ところ}。高^{たか}橋^{はし}所^{ところ}
 とゆふ



塩尻市町家百餘軒。町にちち方八條、又
 わり。巖^{いづり}より西にちち流る水、此集る。正
 夜、鎮内を松本、味七、百八つより、松本、塩尻
 より、百里水なり。平^{ひら}敷^{ふし}の比より、山中より
 じ。信^ま助^あより、ちち廣^{ひろ}く、ちち急^{いそ}のち、ち
 越^こ後^ごの方へ流^{なが}る。松本、仁科^{にの}と、過^すりて、越
 中へり。通^とあり、塩尻、巖^{いづり}の西の坂より、水

したつめの法^{いふ}をそとに法^{いふ}虎のが西に猪^{いふ}校^{いふ}
 原^{いふ}とて廣^{いふ}とせり。田^{いふ}留^{いふ}り。若^{いふ}佐^{いふ}土^{いふ}の
 先^{いふ}事^{いふ}耳^{いふ}利^{いふ}な^{いふ}傳^{いふ}つ^{いふ}中^{いふ}。松^{いふ}中^{いふ}の^{いふ}法^{いふ}と^{いふ}小^{いふ}な^{いふ}と^{いふ}系^{いふ}
 氏^{いふ}と。猪^{いふ}校^{いふ}原^{いふ}とて合^{いふ}戦^{いふ}とて^{いふ}中^{いふ}に^{いふ}軍^{いふ}佐^{いふ}
 玄^{いふ}方^{いふ}に^{いふ}猪^{いふ}校^{いふ}の^{いふ}法^{いふ}虎^{いふ}の^{いふ}西^{いふ}に^{いふ}り^{いふ}を^{いふ}井^{いふ}原^{いふ}の^{いふ}
 東^{いふ}に^{いふ}て^{いふ}り^{いふ}を^{いふ}。若^{いふ}佐^{いふ}土^{いふ}を^{いふ}が^{いふ}れて^{いふ}法^{いふ}虎^{いふ}の^{いふ}西^{いふ}に^{いふ}
 了^{いふ}て^{いふ}越^{いふ}後^{いふ}へ^{いふ}て^{いふ}る。

曉セるミより本町三十町

具^{ツリガ}福^{ふく}もしく保^{たも}ちあり。板^{いた}波^は朧^{どろ}ももよ
と七八町^{しちやう}なり。木^き芳^{ほう}のけ^け橋^{はし}も。木^き曾^{そう}川^{がわ}
にけ^ける橋^{はし}も。わ^わび^びぶ^ぶと^とい^いな^なれ^れる
取^とり^りけ^ける橋^{はし}も。ち^ちろ^ろ芳^{ほう}木^き芳^{ほう}川^{がわ}に
なり。横^{よこ}二^に万^{まん}也^や十^{じふ}万^{まん}わ^わ板^{いた}橋^{はし}も。欄^{らん}干^{かん}路^ろ
敷^{しき}旁^{はう}八^{はち}分^{ぶん}地^ちに^につ^つき^きじ^じう^うわ^わら^らる^る
く^くし。今^{いま}尾^お列^{れつ}を^をり^りけ^け橋^{はし}河^か堤^{てい}固^こ固^こより
け^け橋^{はし}も。柳^{やなぎ}わ^わら^らる^るか^か。川^{がわ}じ^じう^う西^{せい}

の^の方^{ほう}も^もこ^こ山^{さん}も。川^{がわ}水^{みづ}大^{だい}なる^{なる}ふ^ふく^くと^と潮^{しほ}も。
主^{しゅ}島^{しま}川^{がわ}に^に大^{だい}なる^{なる}思^{おも}ひ^ひ好^{こう}葉^えの^の後^ご
橋^{はし}の^の下^{した}小^{せう}島^{しま}の^の方^{ほう}も。別^{べつ}々^々大^{だい}なる^{なる}川^{がわ}な^なれ
わ^わら^らる^る。敷^{しき}原^{はら}の^の方^{ほう}も。わ^わら^らる^る木^き芳^{ほう}の^の
中^{なかつ}若^わより^{より}水^{みづ}に^にわ^わら^らる^る。わ^わら^らる^る川^{がわ}と^と云^いふ。
わ^わら^らる^るけ^ける木^き曾^{そう}の^の御^ご嶽^{たけ}なり。主^{しゅ}若^わ木^き
奥^{おく}も材^{さい}木^きに^にい^いふ^ふ。後^ご橋^{はし}より^{より}主^{しゅ}若^わ木^き
川^{がわ}よ^よ十^{じふ}里^りむ^むり^りも。川^{がわ}の^の方^{ほう}も材^{さい}木^きを^をく^くわ

る。教里翁との方々。本芳へ御下けと。
約ぐけより大めてさるるあり。少り
あつた。はのみ雪むをさるる。富士山
るふとあふ顔つてふ所の人おんけと
云。此山なり。川へ東の元より出たけり
井も。此地を合渡と云。此はけり。中谷
川といひ合はれ合渡と名づく。け
地が御下けとも。凡そ雪の中より材木多

さ事いふ及む。松さるる松木多
に多し。松や。多や。いなり。とあふ
うをす。故よりとあふ事あつて出たけ
よまふ。松よまふ。山中より出たけりよ
とさるる木多し。大木も。松や。松木に
けり。松いどぐに。とあふこれり。実
り。松木多し。とあふ。松よりて松木
餅や。て飯よわて。食ふ。を飢饉をた

とく。ま本横紋^{よこもん}ありて^{ちか}悪^あは^はへ^へと
こども^{こども}尾列^{おれつ}より禁制^{きんせい}を^をて^てさ^さす^す。
我^{われ}民^{たみ}は食物^{じき}より^{より}少^{すく}へ^へ材木^{ざいぼく}然^{しか}る^る松人^{しょうにん}
は^は尾列^{おれつ}より^{より}和泉^{わいせん}紀伊^{きい}近江^{おうみ}如人^{にょにん}
傭^{やう}て^てを^をさ^さる^る。毎^{まい}々^々春^{はる}の^の霜^{しも}消^き。二^に三^{さん}月^{げつ}
よ^よこ^こへ^へて^て十^{じゅう}月^{げつ}よ^よある^る。あ^あを^を焚^いふ^ふ百^{ひゃく}金^{きん}
ふ^ふい^いふ^ふ松人^{しょうにん}す^すこ
ろ^ろを^をお^おて^て。毎^{まい}日^{にち}も^もさ^さす^すと^とか^かか

本^{ほん}骨^{こつ}へ^へ通^とう^う。び^び松人^{しょうにん}を^を山^{さん}中^{ちゅう}に^に敷^しき^きて^て居^ゐ
候^{こう}と。本^{ほん}紙^しより^{より}材木^{ざいぼく}に^に削^{くろ}ぐ^ぐ。或^{ある}は^は松人^{しょうにん}より^{より}
て^て。虫^{むし}足^{あし}人^{にん}計^{けい}ある^る。少^{ちと}く^く本^{ほん}紙^しへ^へか^かぎ^ぎせ^せび^び
く^くを^をか^かく^く水^{みづ}よ^よ洗^{せん}て^てか^かぐ^ぐれ^れら^ら。川^{かわ}中^{ちゅう}に^にれ^れる^るよ
かり^{かり}て^てさ^さり^りた^たる^る。我^{われ}は^は糸^{いと}を^をる^るも^も来^来
て^てお^おす^すと^とい^いふ^ふ。毎^{まい}日^{にち}も^もさ^さす^すと^とか^かか
さ^さる^るい^いふ^ふび^びか^かぐ^ぐる^るも^もと^と本^{ほん}紙^しよ^よ
と^とい^いて^て。我^{われ}は^は法^{はふ}の^の内^{うち}を^を田^でに^に田^で里^り川^{がわ}と^とい^いふ^ふ。

御織と云ふ所より。げおよつ孫と云は
かそとありてひとを少くかぐさば
とて。家とて孫ははらり。素名契田
へとて。契田の内西の方よ。白鳥と
ふみおはく。所よとて。こま地とて。高
人。黄とり。諸ふへつとて。なす二
人つ孫と御織と居て。い事をいふと
と。御織と二町あり。本堂とてなれ

本所とて。事とて。かとて。制林あり。殿
り。いふとて。おとて。なるよりあり

本所路記上終

本曾路記卷下

貝原篤信記

上松より汝原へ三里九町

上松の民家八十をり。けき近き所と
ふとどれより。町よりおちるゝ飯沼大
町神の多き所あり。それよりさう
寝覚のしらやなあり。上松の町より
けらやなまで。すうま町あり。三里に
い近。きなより。また二町程あり。約

て。臨川さくし。福あり。さくし。ろよ
浦。清。が。は。り。や。寝。え。の。床。あり。す
し。り。し。ゆ。ち。あ。る。は。つ。し。て。福。さ。め。乃
床。よ。く。さ。る。乃。あり。さ。る。乃。れ。じ。じ。
福。さ。め。の。床。い。本。さ。り。川。の。さ。り。乃。あり。大
や。り。あ。り。あ。の。よ。こ。十。間。也。四。十。間
な。り。あり。さ。る。乃。あ。り。乃。才。大。の。ら
い。た。社。あり。さ。る。乃。し。さ。る。乃。の。平。

り。り。あ。り。さ。る。乃。福。さ。め。の。床。よ。く。さ。る。乃。大
あ。の。あ。り。さ。る。乃。の。さ。り。乃。の。さ。り。乃。の。さ。り
さ。る。乃。の。平。あり。東。の。方。い。海。の
さ。る。乃。の。さ。る。乃。あり。乃。い。本。さ
川。さ。る。乃。福。さ。め。の。床。乃。大。あ。り。乃。の。方
本。さ。り。乃。の。さ。り。乃。の。さ。る。乃。の。さ。る。乃。の。さ
さ。る。乃。の。さ。り。乃。の。さ。る。乃。の。さ。る。乃。の。さ
れ。る。乃。の。さ。る。乃。の。さ。る。乃。の。さ。る。乃。の。さ

乃本所然といふ紀行よ。本所河内
の洲といふ布引箕面やどふも。あ
くありやどる。そ程の物乃び雪の
奇花といふふもじりやこもり
次所より野尻へを里世所

い可え祿のようめ大あそて今井
多くづきく道うつる。次所の町を
八十九り。大あそてもと橋あり。大

村より又大町といふ。国山の橋坂の
ありかけくちり。びりけり。国
故よ実ふといふ。○は間今井と云ふ
今井の町を並平役と云ふ。あ
野尻より三つ。二里す

野尻の町を千坪。志田村より十町
程。かてい坂あり。もと先は橋二あり。一
探干あり。ぬてんのけりといふ。元

踏ハ皆山仲なり。枕中本芳れ山
 は深山幽谷とてこのそいばさひう
 けけ語多う。針文野尻とんとの
 間がわやうき踏ちりけりたは山也。
 まふのわさうれまうなり石井か
 うろとけ。太ハ較十間さたけうそ
 屏風をさうるわなるありおかく。ま
 下い本芳川乃流さあ也けりあけい



多し。すくはるる名残坊へ本曾乃
かけらうらわやし。いづきも川の正
よりきこる橋はわらび。そのつるのえ
らる所ふりける橋あり。うきうれを
はし。夜寝たどに多し。伝ふといや
うのわけは。まれなり。この尾張とい
くもは。りて。若く入。又先のと。尾
をまじり。所多し。あやうなる事し。

けり。中柄といふ。ああり。まじりい
垣及。と。あやう。も。あ。台川。ちが。出
ひ。い。こ。わ。て。あ。あ。ふ。人。あ。こ。こ
と。い。ね。あ。ち。り。又。と。ト。尾。の方。横
河。と。と。あ。台川。と。と。り。流。橋。と
横河。の。と。と。と。と。と。と。曲
尺。の。と。と。は。り。て。と。と。と。と。橋。也。台川
乃。奥。は。横川。と。と。と。と。あり。え。け。と。中。の

橋ひく〜と。尾列君よりうきまより
も流し急事多〜と云

三留野より妻篠へ三里す

と留野は民家六十軒程あり

妻篠よりとも篠へ二里

妻篠の西乃山名の橋より前よ。なほ
乃あり。清もち越〜と云。これより清もち
〜と云。六里あり。清もち〜より伊あ

り乃甚険難なり。伊あより米を。又
流尾法（山）と云。又是より伊あ
り。大門山（山）と通る。飯盛山の下と云。そ
窪田（山）なり。○妻篠より本芳川西の
方にさく。清もち乃い東あ。乃て妻篠
山をこゆ。ゆ。本芳川と云。さく
〜は。是よりけ〜も。本芳川をさか
ふ。妻篠山と云。〜も。これ本

曾の山中と出る。けるれ坂。本町の湯
坂なり。俗よいる。新屋と云。又風越乃
峯もはるる。ん。も。あ。分。め。る。い。い
づ。も。も。る。あ。也。本。町。後。も。本。町。れ。け
い。い。本。町。後。川。も。皆。く。あ。ち。り。い。け
ま。も。あ。ち。多。い。元。本。町。の。山。中。後。川
より。る。あ。ち。多。い。サ。一。里。も。本。町。乃。若。い
も。の。あ。ち。多。い。大。河。と。て。石。大。い。あ

あ。い。坂。よ。形。さ。く。あ。ち。多。い。れ。山。中。せ
い。い。山。田。畠。す。れ。あ。ち。て。村。里。と。い。か
い。米。大。豆。い。松。ち。り。あ。ち。多。い。山。中。に
茅。屋。ち。り。して。皆。板。葺。也。を。ま。い。げ
ち。い。い。土。壁。な。い。い。か。板。壁。ち。り。元
佐。佐。は。竹。と。桑。の。木。す。れ。也。を。ま。い。げ
い。い。植。れ。た。あ。ち。い。い。あ。ち。多。い。竹。と。用。ひ
あ。ち。多。い。皆。木。と。用。ひ。中。桶。の。種。い。ハ

墨郡あり。九修溪の東に上野あり。
甲斐を以て三河の越後越中越前
あり。又溪あり。九八ヶ岡は清原の
のちうさうといふ巖あり。又溪境を
東に四十七里餘あり。

落合

又落合は墨郡あり
もろりといふ

より中津川へ三里

落合の民家九十九軒許これよりあり
於坂下といわれども改修山の中にも

て。嶮難ありてむやみとあり。本落
をわく家よわれは先我が家よりあり
うろむ地とる。唐の山人雍陶が西陽
出斜谷詩より行過嶮棧出塵斜出
盡平川似到家無限客愁今日散馬
頭初見木囊花と有り。一水あり。落
合のあり大とて横長嶽と云ふ。げ
山也。南本れ城あり。いふたりきこ

のふわり。本宮川城あり。飛騨
川やまがら。今いそと。和泉。後居城
なり。総統一万五千石。所合と中津
川の道よりわよ。祓さめ。此里あり。名
所也。一説は。杭瀬川の上。中森といふ
ところのより。より

中津川より大井へ二里す六町

中津川の町民家二百餘あり。根は乃

甚平のる格あり

大井より大久保へ三里す

大井は民家百廿軒あり。中津村よ

り。尾列名護屋あり。あり。もま

る。そ。台よりゆ。大久保へ。い。な。つ。こ

水の方へ。け。け。る。ふ。西。坂。と。て。坂。あり

西。坂。の。墓。あり

大久保より細久保へ三里す

大久木の家三十里、新井大久木、細
久木、いづれもやうくあり、さかひなり、町
あり、けちふ、琵琶坂とあり、けち乃と
より、段の方に、木雷の足、けちなり、水
ぬか、笑れ、白くくく、ゆる、ゆる、いさ、いさ、か
ふ、藤、まて、ち、わり、も、目、本、三、番、乃
ち、く、あり、飛、浮、の、く、あ、い、より、ち、あり、又
は、地、より、ぬ、は、伊、吹、山、ち、ゆる

細久木より、清嶽へ三里

細久木の家の平井あり

清嶽、可、見、那、より、休、見、へ、ま、ま

清嶽の民家百二十軒あり、町のく、
これ、方、乃、小、く、ま、ま、主、権、現、の、社、あり、
吉、形、れ、花、と、執、持、け、ち、や、吉、
形、を、清、嶽、く、い、く、け、ち、ち、ち、け、
と、名、付、く、あり、ん、由、嶽、の、町、れ、東、乃

とくもより西の方。乃とらに初て並
本の松も。東海乃如し。そより東
まは乃とらに並本の松なり。市嶽
より西へ平比なり。そより東へすて
山あり。所の西とらとの方より見
れ。たもとて人なり。茶師。きまげ。多
く思ふれど。かくみ付も。ししげ。西
よりに。やうれ。た。ち。い。わ。づ。し。ち。鈴。石

石 云儀より附

伏見より太田二里

伏見の所。辰屋。平。許。と。所より。花よ
名。古。屋。へ。引。乃。と。太田の宿。れ。東。の。さ
ふ。太田川あり。毎。後。なり。太田川乃
り。也。毎。の。く。も。る。太。河。あり。み。多。也
み。多。多。多。太田より一里川。上。合
と。云。云。と。太田川。飛。浮。川。い。ろ。り

落合なり。飛澤川も大海ふれども本
 郷川よりわきし。本郷川の下尾越川
 なり。本郷川より東の方可見郡也。倭人の
 とも今山の城ありとも。佐々木の氏森
 三本馬同武蔵守居城なり
 本郷より新沼へ二里

本郷の宿。お釈二百五平新郷と本郷
 け宿乃上まで船とく。本郷よりある

新郷と紙法とてふ。本郷より一里と
 の方に土岐と。みみ也。ちちと。じりし。矢
 濃乃土岐氏領也。本郷より名古屋へ
 九里あり。〇本郷より一里あり。新郷と
 して。あまは。この村より。新郷と。おと
 らや。山と。紙け。づりて。はり。新郷と。す。矢
 濃の。け。新郷へ。け。さ。より。山。新郷
 と。新郷。山。町なり。〇新郷。紙。へ。本郷

の北^{ほく}乾^{かん}よわる武^ぶ藏^{ざう}郡^{ぐん}より多く出る武
藏^{ぶざう}郡^{ぐん}の内^{うち}つうらの谷^やとてひろき谷^やも
はきより谷^やは多く出る尾^お別^{べつ}郡^{ぐん}の市^{いち}飲^{いん}
内^{うち}あり○関^{かん}は左^{ひだり}面^{めん}の水^{みづ}二里^{にり}すふあり
ひろき所^{ところ}也^{なり}波^{なみ}阜^ふにつむり商人^{かみん}多く
中^{なかつ}徳^{とく}寺^じより堂^{どう}物^{ぶつ}は出る所^{ところ}也^{なり}じうより
船^{ふね}治^ち多^{おほく}し少^{すく}力^{りき}船^{ふね}治^ちも勢^{せい}なり今^{いま}十^{じゅう}四^し
人^{にん}住^すむ郡^{ぐん}といふも水^{みづ}也^{なり}郡^{ぐん}との内^{うち}八^{はつ}幡^{ばん}と

つうしよ、堂^{どう}若^{じやく}信^{しん}濃^{のう}も殿^{てん}居^い城^{じやう}あり関^{かん}と通^{とほ}
つうしよ左^{ひだり}面^{めん}より八^{はつ}幡^{ばん}一^{いち}里^りあり郡^{ぐん}とい
ふ中^{なかつ}ありる三^{さん}万^{まん}石^{せき}餘^{あま}あり○左^{ひだり}面^{めん}の坤^{こん}
は向^{むかひ}ふとて山^{さん}も水^{みづ}は下^{した}ふとていを本^{もと}
若^{じやく}川^{がわ}なりは取^と組^{ぐみ}といふ村^{むら}も又^{また}本^{もと}若^{じやく}川^{がわ}
に流^{なが}るる船^{ふね}もとて先^{まへ}の船^{ふね}よりとて
あつといふ又^{また}人^{ひと}坂^{さか}もといふのといれが
けりともあるがけつ二^{ふた}所^{ところ}也^{なり}危^{あやう}し。たの

（こゝに）

（こゝに）

る也。またの名い本の枝れぐ。是耦
耕をあら

精治よりか、細く四里十町

精治の所。家数七十軒と。精治のあれ方
み。大心の城らうく。もる十町ぐりふ
るゆ。まわりて約ゆ二里と。成徳年
人正の昔城也。大心の城れ小のこい。本
川なり。○後拾遺集東の方へ。まう

くふ。うはく。あ。と。深き。事。後
う。う。は。く。い。り。人。の。あ。れ。い。な
く。う。う。は。く。昔。う。う。は。く。い。な
く。や。○大心が。もの。方。小。牧。三。里。小。牧。の
か。う。や。り。な。と。こ。る。候。也。大。心。と。小。牧。の。る
小。楽。田。と。い。ふ。所。も。大。心。より。あ。一。里。ま。小。牧
の。水。一。里。ま。ふ。と。る。次。乃。宿。よ。い。あ。う。と。
これ。も。乃。前。と。所。す。う。と。小。牧。も。楽

田と秀吉との討乃海軍也。小牧なる名古屋
へ三里あり。精治よりあるをいふ中に監輿あり。そ
より東に戸目えとの所より監輿は但
上制の坂なり。監輿少く。そいふすい
あるゆ也。精治の死れよりよりあり
廣くあり。各勢あり。げる各勢都
なり。都の山は各勢と云む。各勢

砂いりて三里四方なり云。但東北へ三
 里ぐらゐ。南へ一里す程はゆるい所は
 田畠ありてまきまきの生ひ。所の南
 は二舟山と云ふなり。そへはも木芳川
 のきけすで砂なり。○新か納々か納々
 一里すふらふ。小なる所なり。砂浜よりか納
 への所也。そまきまき長め年波阜の勢と味
 方れ徳大おと合戦の所なり

か納 安積郡より合渡二里止

か納の町も十八町程也。今の安反右系
を反居城也。か納より西に平田と云
ふ所あり。故よりつとめの事あり。田畠たははまんを
むといふ事と杜くるの事とす。む
筑紫といふ室をたとふよりて田乃
こ中とす。是より名古座八里。故阜へ
一里あり。故阜は是より西にあり。故阜

よりいふ一里あり。の海に也。故阜
の町に人家多くていふことあり。高
人多くみえ。故阜に稲をいふ。名
あり。古事あり。故阜の立つとい
ふ。このことあり。むけありといふ。
因幡の町。奇なり。因幡のむけと
なるべし。いふことあり。ふりふ
因幡の町。むけと云ふ。又、飯良藤也。

け地の京（け）京都の清（け）みづり。西山（け）とせいに
 う（け）ゆる（け）あり。すべくけ山の京（け）甚（け）は
 改阜の地最佳處也。京都の風景のごと
 く。土地も小石（け）あり。京都乃地のご
 と。改阜の山脈とていふ。山とていふ
 と。中固（け）幡（け）の社れこの山也。峯に
 ね多（け）く改阜八周の改山（け）あり。そとてふ
 付（け）しと也。昔無夜新興り城也。そ付（け）そ

ハ編纂云々。佐土云々。つり多し。てより
波阜云々。有見郡也。○佐土云の城。わとは
つり多し。のわ。あり。城乃大なり。西向あり。
城云々。一。云々。千尋。爰の佐土。城下
に。今。は。澄の城。つり多し。町の外郭
み土。み。わ。り。澄。と。佐土云の所。乃。城のり
ま。なり。佐土云。へ。り。多し。爰。小。居。城。一。結
ひ。り。天。正。四。年。を。江。の。安土。の。城。乃。將。り。

その後佐長の嫡子織田城久佐長の子。
中納言秀俊に城。居候。多し。波卓
中納言と稱す。是も佐長年留三成
みよりて。げ城。東佐方の佐長おのり。
に責^{せめ}ある。○波卓乃ある川と名^な稱
川と云。川上にも名稱あり。村あるゆへ也。
波卓乃あるの川より。河さる。山より。さ
てある。波卓の方より。さる。川に。枝河^{えだがわ}に

てある。河の方とある。川に。河のめて
大^{おほ}なり。波卓の方。河のめ。波卓方
より。名稱川と云。合後乃十町より
川上。梅が。川の川より。河。合後
が。合後と云。上の川より。さる。
河より。下の河。合後乃。一里許あり。
河より。中納言と七村と。波卓より。合後
河より。名稱川と云。河より。川に

難多^{わか}う。ぬいのりて粒をつふ。はれの難
 江^えへも献^{けん}ど。孝長み年^{とし}圓^{まる}系^{けい}陳^{ちん}のち。
 八月廿三日波阜の城を攻^{せめ}けし。大橋の
 城より款^{てん}出^して。すくんとて。合渡の川
 の西まで参^{まゐ}り。くろ河。此方の徳大寺
 川とて。款と追^おひ。くろ。合渡
 の常^{とこ}れ。やい。あまのこ。い。材^し。款^{けん}け。
 ところ。は。か。く。い。く。長^{なが}。り。と。え。合渡

川（かわ）の（の）後（のち）也。深（ふか）さ十尋（じゅうじん）に（を）あ（ま）る（も）と（も）也。
 我（われ）け（が）川（が）を（を）つ（と）る（る）時（とき）毎（まい）の（の）よ（よ）ふ（ふ）く（く）三間（さんかん）乃（すなは）
 竿（かん）と（と）ふ（ふ）す（す）よ（よ）と（と）う（う）す（す）川（が）の（の）あ（ま）ぐ（ぐ）れ（れ）い（い）ち（ち）づ
 う（う）あり（あり）。洲（しゅう）の（の）股（また）川（が）乃（すなは）河（が）上（の）也（なり）。○波阜（はふ）より
 合（あ）波（は）へ（へ）三（さん）十（じゅう）町（まち）ぐ（ぐ）ら（ら）。西（にし）も（も）よ（よ）行（い）て（て）か（か）納（な）乃（すなは）
 乃（すなは）又（また）出（で）。屋（や）々（々）湊（みなと）の（の）町（まち）め（め）つ（つ）る（る）。○波阜（はふ）の
 水（みづ）小（こ）席（せき）田（た）とい（い）ふ（ふ）あり（あり）。郡（ぐん）の（の）名（な）也（なり）。石（いし）水（みづ）也（なり）。
 又（また）波阜（はふ）の（の）水（みづ）三（さん）里（り）許（こ）川（が）上（の）也（なり）。岩（いわ）田（た）の（の）水（みづ）砂（すな）

あり名所なり

合渡より^{ええト}三里八町

合渡の町家敷三十間、新道よりあり
○いほぬさ川は、ろくろ川と云ふ也。古
より、席田のいつぬさ川と云ふあり。席田
の都より川也。中田と云村乃、色あり。
大河よりあり。里の人いふぬさ川と云
ふに、ちより赤坂（二里八町）

合渡の町家敷三十間あり。○合渡
乃水守里小。木葉材と云。此に所の
多く出る所也。木葉所と云。此に美
多と云ふ所あり。只一様なり。
ひより、毎年所の付江戸（越前）と云。
木葉の町か。木林乃、少あり。あり。
大乃よりゆり也。○合渡の町より
合渡より、ろくろ川也。千載集よりあり。

中にくるくろくろくし 順礼のれとあ
 おさじる西才三十三番の観音あり○
 呂久村よ呂久川とて大阿まぐいせ川
 ともえみ後し也。合後川よりいかなりと
 ひとどもあ源くして川の流る。飛騨山
 の方高は乃郡より出る川也。げま里
 トと佐後川とも。佐後村い川の西あり。
 佐後川乃東よ結村と。大柳より洲の



股（ひざ）のりるぐこのやう小社と結の村と
のりる也。ちち多し。是も品々よりす里
ト也。○沈尻村はりふあり

赤坂より桑井（くわい）一里十二所

赤坂の水屋（みづや）を移（うつ）しはるる堂（どう）も。
赤坂乃宿（しやく）いひし熊坂（くまざか）乃（なり）も紀（き）が源（げん）九（く）所
義経（よりに）よりしれ。是也。是も品々よりす里
の市（いち）本（ほん）陳（ちん）畧（りやく）山（さん）の赤坂（しやくざか）の南（みなみ）にありしき

とあり。赤坂（しやくざか）の方（かた）かいやうとあり。けし時（とき）務（む）
とて名（な）を改（か）めせむとより。今（いま）も町（まち）と
とて。是も品（しん）々（さ）今（いま）も 御殿（ごてん）と○墓（はか）と
ひりい桑井（くわい）赤坂（しやくざか）と曰（い）く宿（しゆく）也（なり）。今（いま）小
里（こ）なり所（ところ）なり。名（な）赤坂（しやくざか）なり。是（こ）も品（しん）々（さ）
赤坂（しやくざか）の地（ち）とあり。赤坂（しやくざか）の社（しゃ）いも墓（はか）の西（にし）
れり。水（みづ）の谷（や）乃（なり）とていふ。海（うみ）乃（なり）も所（ところ）
なり。是（こ）も品（しん）々（さ）赤坂（しやくざか）の地（ち）とあり。赤

木の墓あり。また墓の西よき杉材あり。
そこの杉材が東也。若雨也古方より。熊
坂の北麓が柳の松とて大なる松と。
赤坂よりゆけば南よき也。大坂よりゆ
べやよき也。金井の少あは川よきて大
坂の南と赤坂の方。本なる路の勢ゆ
く。乃し。ちまきこきよりいつは

金井より岡原へ一里す

金井のをあは小坂といふ所も。兼良公の
為川乃記に曰。文和の以後光嚴院南軍と
せられはしくて。小坂より有る一歩也。
民安とて。律院より。そきひくはと
あは。○二条良基乃小坂のさきいそ
書も。いし。附付をきれ。さきとさき。玉
り。足利義隆も。いし。附小坂のや。居を
護と。いし。金井も。名。あは古方。金井

の宿れある南^{なん}ふあり。また院の中と
いふ名^なあり。石^{いし}被^ふの中^{ちゅう}とあり。また南^{なん}ふ乃
じろにもいふ。また南^{なん}ふ乃の南^{なん}ふ乃
あり。ゆへ中^{ちゅう}とあり。又^{また}社^{しゃ}とあり。また南^{なん}ふ
乃社^{しゃ}有^あゆへなり。社^{しゃ}いふの藤^{ふじ}はも。大^{だい}社^{しゃ}
なり。東^{とう}よじり。また南^{なん}ふ乃の南^{なん}ふ乃
中^{ちゅう}の南^{なん}ふあり。また南^{なん}ふ乃正^{せい}一位^{いち}勲^{くん}一等^{いち}
金^{きん}山^{さん}彦^{ひこ}大神^{だいじん}とあり。社^{しゃ}係^{けい}十二^{じふに}坊^{ぼう}。社^{しゃ}人^{にん}

十二^{じふに}人^{にん}あり。また南^{なん}ふ乃社^{しゃ}人^{にん}あり。社^{しゃ}
三^{さん}石^{いし}。公^{こう}儀^ぎより神^{かみ}寄^よ附^つとあり。園^{えん}が東^{とう}
院^{いん}の^の。安^{あん}園^{えん}寺^じ。安^{あん}に^に院^{いん}とあり。げんを
焼^{やき}とあり。また南^{なん}ふ乃大^{だい}猷^{ゆう}院^{いん}とあり。南^{なん}ふ乃
神^{かみ}建^{けん}立^{りつ}あり。今^{いま}も南^{なん}ふ乃の^の。○多^た岐^ぎ山^{さん}
いふ。また南^{なん}ふ乃の^の。また南^{なん}ふ乃の^の。また南^{なん}ふ乃の^の。
伊^い勢^{せい}の^の。また南^{なん}ふ乃の^の。また南^{なん}ふ乃の^の。また南^{なん}ふ乃の^の。
また南^{なん}ふ乃の^の。また南^{なん}ふ乃の^の。また南^{なん}ふ乃の^の。また南^{なん}ふ乃の^の。

○書むの滝。又流國南者郡多及山
にあり。續日本紀より。多及
山乃たり。され。少南の者より。ト
よひき。跡あり。もし。い。き。跡の。也。
ふ。乃。ある。也。○栗原。ふ。も。ふ。の
東。れ。也。も。ふ。ふ。つ。も。り。少。し。と
し。も。ト。に。栗原村。と。関。が。栗原の
き。も。我。部。土。佐。ち。海。せ。也。○跡

上の里名。あり。ち。あ。か。り。今。い。民。家
か。と。き。井。と。関。が。栗原の。也。も。ふ。に
跡。の。ふ。と。と。跡。と。れ。あ。と。桃。と。
ふ。と。と。跡。あり。小。家。こ。と。跡。あり。あ
乃。少。も。也。天。武。帝。も。跡。と。は。海。と。ふ。
関。が。栗原。より。今。洲。へ。二。里
関。が。栗原の。也。に。跡。ふ。と。と。禁。行
中。氏。乃。也。勢。ふ。の。と。れ。若。の。中。に。

の方也。圖が東傳乃とて、^{ちい}統お中絶云
秀秋の傳也。^{しでやうな}ふれよと傳とせられ
一也。上二城ありてよくゆる。こそ昔に
石坂河内ち居城なりと云。○南まふの
も。多破山の山をある路あり。あまふ山
ともなふとの間也。げ若い國が東に若
わひよりひとくとも。上二方より商人の東
へぐるる所なり。今洲より國が東へゆくと

て園が京の西よりありて東へゆく
牧田と云宿。今例より二里ほど敷きけり
と牧田のいふと云。牧田の東より西と云
宿あり。その東より宿と云。宿より東
垣の南也。宿より河船より京。京より
文へも宿也。京の商人などい。荷物を
江戸へとてい。おかくけりといふと
いふ。今例より宿より六里あり。園が京

軍のちり東大垣の城乃款衆中にて。
いそふ園が東乃西（返）にける也。
と云。大園村に実が東の所が三所なる
と云也。そそ破の園乃有と云也。大園村
のあれと云ふに川も園の麓川と云ふづ
まも名也。俗に名子川と云。○もまふ
乃あまふと云ふなり。そらと云ふ多
る越と云。を江の目野と云の方越也。

園が東陳敗す。一時時辰辰返る。はひる
なり。○園が東と今例の常れ同。一甲
乃里あり。源の義経の母常盤墓と云。乃
の水森あり。なり。○伊吹といふ名を江
乃境あり。名也。伊吹の里いをは也。山の
あまふあり。そも名あり。じう。天武天
皇の兵と云ふ。大友の皇子の兵と戦有も。
ける破の園也。大友け皇子はあまふけ

長溪へ約六里あり。長溪の湖の
もとあり。町も。考古も。修也。乃時。
初に安ふ居り。
番より鳥居かとき里十町

り。番より今の番より。宿のあり。あり。
湖の。に。米原といふ。水。大津。貝津。
塩津。より。みれば。く。淡なり。大津を
米原まで。舟。六里あり。米原より

今の番より。あり。け。放より。番
より。町と。今の番より。は。て。なり。
米原へ一里あり。米原より。鳥居。を
里。あり。○。鷹。の。番より。鳥居
乃。宿の。あり。湖。の。眼。に。あり。
好。也。竹。生。橋。は。より。い。ぬ。か。方。に。
ゆ。り。乃。ま。つ。り。一里あり。め。づ。い。は。皆。屏
風。を。ま。つ。り。なる。岩。也。社。あり。僧

義秀の一族。佐々木義禎が居城なり。
親者ちよといひてさういふ也。建武の祿
ハ箕作との東にありといなり。○む曾の
森ハ毛智川と武者の宿のりふなり。親
者ちよいふなり。清和といふ所乃がふ
なり。海部のといふ也。むある村ハ所なり。
いなりといふなり。いふのあり。地を
うへなりといふ。是のといふは栗の栗の

くらゐふなり。と中に木の枝の有
なり。火を付れり。いふなり。里人れ
を返してなり。火をよくなり。いふ
人々をいふ。れ栗の木は栗なり。と
いふなり。さか物也。佐列ハもいふなり。い
なり。昔はさか物也。栗の木は栗なり。
と云。續西陽雜俎。東海ハ大栗なり。
といふ。いふ栗の事なり。やといふ人なり。

後まで一里也。後より守らる二里あり。武者より八幡山へ平町あり。武者と守らる同様園といふ所は川より西なり。○新洲ハ後と守らるる也。後乃常の所なり。は所のちなるにて布を多くしと。やと川ハ所のぬれに。此洲川は東より西なり。○も舟かたを根へいふ。老根より八幡と云ふなり。

それより新洲より海あり。是を江乃下道といふ。平地とてよれり。是沙地なり。別樹の松あり。將軍家津上落のとさへ。はらとゆふなり。將軍人も毎にけり。とて紙を。も舟かたより老根へ一里あり。根より八幡へ六里。八幡より守らる三里有り。老根と八幡の名は安土あり。修長公乃城あり。安土は今も所あり。在

あり。修也との所乃屋敷ありといふ。
八幡と砂洲のあり。其東より又あり。
い幡の所いふ事大に神ありといふ。
富の商人多く。佐の素物も多し。より多
くあり。其河川よりして船も出たり。其
所乃水は八幡のあり。其東の所の素
次の居候あり。其次とを江中納言と
稱す。其東の居候あり。いふなり。其

て敷帳と申す。あり。其東の
坂江の所も其東の所。元日本國中
より敷帳。其東の所あり。其東の
より親者あり。二里あり。其東の所。其
智川二里あり。其東の所。其東の所。
乃社あり。其東の所。其東の所。
其東の所。其東の所。其東の所。
守より其東の所。其東の所。

藤原の里に守とまはのるみあり。
 又けふふの形ありふも也。形はま
 はとふはれふも。けふよりは良の
 ころ。是は敵ふまむ。時田れうもど
 ころ。

藤原より大けふ三里す六所
 勢田の橋乃れ川を。女に玉中の水こ
 とぐ。湖へく。その末流也。そより宇



沿るがまは後とさく江をとりつるは
乃國神崎川十三川大坂の川よ出る勢
多なりるへも里館あり。石ふれ下に
佐津の瀬あり歩みくもけりといふ
そとにちとびといふあり。あぢの川
み大坂るれも岩のりりといふゆへ
いふはとび海といふ。〇堂にち多と
るふのりも四月下旬のけけはよりあ

ぶたわちちとびいしく飛ちて橋に落ち
みとびり。教方の堂一ありあり。ま
丸くかきまててそよあがり。そよあがりあ
のよはあがりちとびといふ。毎年のけけに
潮日とちとび川よへる。いふ流りてい
又月上旬のけ堂多きといふ也といふ
〇勢田より大坂のれ乃越すて一里あり
る。大坂にちとびといふ。所はさ

と海やうにく別^{べつ}なり。船^{ふね}多^{おほく}と膳^{ぜん}所^{しよ}の間
栗^{くり}は^が泉^{いづみ}也^{なり}。今井^{いまい}田^で部^ぶ通^{とほ}平^{へい}が墓^むあり。本
弟^そ義^ぎ仲^{ちゆう}乃^{なり}墓^むい。膳^{ぜん}所^{しよ}の武^ぶ家^けのうゝに在^あ
り^{たり}の事^{こと}也^{なり}。舟^{ふね}の本^{もと}二本^{ふたふた}と云^いはれしに在^あ
れ^{たり}。溪^き膳^{ぜん}所^{しよ}あり。ふまれ祢^ね食^{じき}を個^こ
ふ所^{ところ}也^{なり}。舟^{ふね}の溪^きと云^いふ。又膳^{ぜん}所^{しよ}と云^い
松^{まつ}本^{もと}の事^{こと}也^{なり}。湖^{うみ}のうゝこふ。比^ひ敵^{てき}のふ。坂^{さか}本^{もと}ハ
王^{わう}ち^ち堅^{けん}固^こ也^{なり}。舟^{ふね}のうゝ一^{ひと}松^{まつ}。三^{さん}井^いち^ち乃^{なり}

上の長^{なが}等^{どう}ふ^ふち^ちと云^いふ。舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。大^{だい}付^{つけ}乃^{なり}
東^{とう}也^{なり}。湖^{うみ}の事^{こと}也^{なり}。舟^{ふね}の溪^きと云^いふ。

大^{だい}付^{つけ}乃^{なり}三^{さん}里^り

大^{だい}付^{つけ}ハ水^{みづ}邊^へ乃^{なり}要^{よう}地^ち也^{なり}。舟^{ふね}の奥^{おく}列^{れつ}船^{ふね}
より。舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。舟^{ふね}の物^{もの}を舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。
越^こ前^{ぜん}敦^{とん}也^{なり}。舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。
舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。
舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。
舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。舟^{ふね}の事^{こと}也^{なり}。

るく大井一急く。又東を江を西を
くよりもし地は紅花くぬ。にさへ。一國屋
所富家抄なり。札の辻より水は約ハ
水西なり。と井もさる親ま。比敵く
とそよりゆ。れ乃辻ハ所の坂甚にど
りき。西也。ハ所の坂の者。一國乃明神
あり。比神ハ輝丸たりと云。つぎ。一。比
社乃なり。小國の清なりとてあり。但右

人の後。一國の清なり。西なり。つぎ
比く。つぎ。一。比。方。に。國。も。あり。そ。そ。先。よ
ひ。一。相。坂。の。実。なり。あり。一。あり。比。よ。の。一
い。あり。なり。一。國。乃。小。川。も。比。も。あり。ん。
一。國。乃。小。川。の。花。なり。一。あり。一。あり。一。
の。一。に。一。井。は。國。の。小。川。ハ。成。なり。一。音
一。乃。より。み。ら。散。り。國。ハ。一。あり。一。相

○本郷下
坂山あり名も也。○大井と追分なる大
井といふ所。さうも井とてある方より
れりた出る井あり。○をいへば機乃境に
大井と追分の界。追分は小一町なり
ま井の西三町にあり。是れ三千三百
東三千三百の境なり。○追分は東と
西といへばなり。○追分より
南は又半の尾山あり。是れ山なり。

さうよりいへば是れ山の麓なり。是れ
の麓に三町あり。げ地と清なり。と此
殿とふあり。○山科の里はすべて八郷
十八村あり。是れ大井より日の出なる
一里あり。小井の里より一里あり。
とて方一里あり。宇治乃郡あり。
○大井の南に十郷あり。其の東は
大井の社あり。小井越へてくる小井

ありきより少く越ゆきいふ所ありのあり
知る也○山科の内は市陵村なりなり天
智天皇に市陵ありありはるこの所と
市麻野といふ所と洛の所と市麻野の
宿もども皆し野は市連は出て市福
しなり○あのかの坂の上を日の出といふ
なりげなりそあり京の方へりる坂を
松坂といふ○うむが押くろりといふ所あり

乱世は八雲にて山賊人を殺し衣紋
とていひいふ所も何は白きなりも一
人いひいふなりいふなり○松坂は義経
のけあきなりあり○栗田はあり
東へ出たりなりたはまきき一院市に跡
あり。たのうしは市麻野ありなりり
るどおありありありありありあり
乃かゆなりなり。栗田はありありあり

○白河橋は川を白河より出たなり
知恩院祇園法多くは道あり○二葉の
大橋より東へ入なり。は川へ入るなり
乃下あり○日の出た東へ行乃内
も方へ行。又西乃方へゆくとは越え
系部又東へ東へ入るなりある若
越と云坂あり是と若集滅道といふ
奇れ中へ清栄も清ありと云

○追分より東へゆくと休むゆくと
勅修され茶屋を多は。宿へは西へ
大衆居るといふ所なり。茶こぐかどう
かあり。その乃方小勅修寺門跡
あり。由の程のも茶屋は山のなるなり
り。又道は益々大なる。小社あり。
是延喜の帝の外祖父母なり。は事
ハテ活物也。と云。その坂と越え

ハ後の森乃社のあはれをりて休らん
へは

波祖路記の後叙

波祖路キツいふ程さうじより道
けくしめけくしめとあれと
しやとあやうし次々井川河野川
たのしめけくしめとえくしめ
取乃うしめけくしめとえくしめ
のしめけくしめとえくしめ
とえくしめけくしめとえくしめ

の内四十七里ハ山中なるゆへ坂多
かれと箱根のくくちうきあふ
山中ありけりハ公とれと
多しとあふとあふのふと地
方よくあれハあふとあふ
るとも器もけりハあふと
川のくくち林木のくくち
きうはくくち目くくち目紙くくち

ハくくち人すくくちと結末も
るれと道の中くくちのくくち
けりあふと人馬のくくち
竹輿のくくち鞍けりハあふと
あふとあふと只十二月正二月を
くくちとくくちくくち江戸は
くくちとくくち皆東海道をゆく
くくちのくくちくくちのくくち

いね又さぬくまぬのこたては
しめてけ道とよりゆつりし
おひしけとよりぬきぬを
目に見開きし紙いさう後乃
あひくふとんとてさゆさうに
人よきうのし書志ぬくゆる我
一人のふきいふのさういも
まてる事たりしうるゆか

らんいうえう後のもて人彼道
乃て紙志ぬくいられゆらう紙
ねさやいさう人ふとたしけ

寶永六年八月

貝原篤信書

京六角通市幸町西八町
書林茂本多虎泉門板行

本署海道審付

才たふふふたりん
宝永四ヨリ一ヨリ
其の儀こつこつ
より一分に

江戸から二リ

七十八

板橋分府文一万余世二文

從古以來一近

廿九文

徵分々一り半 三ふ文

浦和古太や二り十二丁

軍二文

大食古虫を二リ
六十匹入

上尾方おけふへり

世二文

かのとへり世丁め十九文

鴻筆之病久已

百卅九

卷之八

陳晉之

卷之五

聖天子
 二
 六十二

辰時未時なまじり

九
文

玉村のくろのへりあゆみ

鼓吹曲

4

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

板鼻とわんふく一り

5

仲々二り 七十六

松坂

七十一

坂本 四ノ宮 三ノ宮 石ノ宮

得身公之公一

廿八文

當座におくけり元八文

過分古松公一り

世臣

小園科古堂一里

